

進化経済学会ニューズレター

No.55 February 2024



(夕焼けと富士山 撮影：横田宏樹)

進化経済学会事務局

〒572-8508

大阪府寝屋川市池田中町 17-8

摂南大学経済学部

原田裕治研究室宛

- ✓ 2023 年度オータムコンファレンスを終えて
- ✓ 第 28 回進化経済学会オータムコンファレンス理事会議事録
- ✓ 進化経済学会会勢状況
- ✓ 第 28 回進化経済学会オータムコンファレンス（福井織協ビル）会計報告
- ✓ 2022 年度収支計算書
- ✓ ニュースレター54 号の訂正について
- ✓ 編集後記

2023 年度オータムコンファレンスを終えて

第 28 回進化経済学会福井大会実行委員会

2023 年度オータムコンファレンスは、9 月 16 日（度）に JR 福井駅前近くの福井織協ビルにて対面会場とオンライン会場との組み合わせのハイブリッド形式で開催されました。また、福井での開催ということで福井地区に多くの会員を擁する地域公共政策学会との共催の形式をとることになりました。参加者数は、対面で 24 名、オンラインで約 5 名の合計 29 名の参加がありました。

今回のオータムコンファレンスのテーマは、2024 年 3 月に開催される本大会のテーマ「空間の進化経済学とその可能性」に合わせ、「進化経済地理学の成果と課題」としました。

最初に、外柵保大介氏（九州大学基幹教育院）に「進化地理経済学の近年の動向」について、ご講演をいただきました。進化経済地理学について、これまでどのような学問的な展開を見せてきたのか、またそこで課題とされてきたことは何かについて、概略をまとめていただきました。特に、進化経済地理学のアプローチを「経路依存性アプローチ」「一般ダーウィニズムアプローチ」「複雑系アプローチ」の 3 つのタイプから説明をされるなど、専門外の研究者にとっても、非常に分かりやすい整理をされた解説でした。後半では企業城下町の研究についての紹介をしていただくことで、学問的な可能性についてより具体的に指し示していただきました。

今回の開催地である福井県は、合成繊維の一大産地として有名です。そこで、次に登壇された、橋野知子氏（神戸大学大学院経済学研究科）には、もともとは天然繊維である絹製品の生産から始まった福井県が、どのように合成繊維に移り、根付いたのかについて、講演していただきました。特に、群馬県の桐生、京都の西陣、福井という元々は同じ絹織物産地であったところが、その後何が原因で分岐し、全く異なる発展過程を辿ったのかという興味深い事象を、データを用いつつ解説されました。進化経済的な学問的な興味について、歴史的な視点から明らかにされた報告でした。

最後に、松原宏氏（福井県立大学地域経済研究所）に技術軌道を用いた工場の進化と地域の進化について、ご報告いただきました。同氏は、産業集積論の発展の中での技術軌道論の位置づけを簡単に概説をされた後、具体的な研究成果を 3 つ紹介されました。最初の例は、過去約 50 年間の間に、東海道線沿線に立地していた大規模工場の機能が、すこしずつ変化していく様子を追いかけたものです。次に、北陸地域における地域中核企業の発展過程、上越における工場分布の変化を紹介されましたが、いずれも「技術軌道」という観点から説明をすることで、単独の工場の変化だけが説明されるのではなく、産業と地域の「進化」というとらえ方が可能であるという見方を示されました。

また、今回はこれらのコンファレンスでの報告全体に対するコメントーターを、藤本隆

宏氏にお願いしました。同氏は、3つの報告に対するコメントだけではなく、さらにご自身の最近の研究成果も披露されました。例えば、コロナによるサプライチェーンの停滞などを受けて、トヨタ生産システム＝在庫レスという「常識」も、もはや変化していることなど、常に変化をし続ける産業・企業のダイナミズムを肌で感じさせる内容でした。

今回のコンファレンスでは、進化経済「地理学」という空間を対象とする学問体系の可能性を感じさせると共に、時代の変遷から地域の進化を見るという点でも、密接に繋がることが明らかにされました。また、コンファレンス全体として、理論的な成果と現実との関わりの近さも実感するように、組織者である松原氏によって設計されていたことを実感させられる内容であると感じさせられました。

コンファレンス終了後、同会場にて、学会の通貨である JAFEE といくつかの学会提供の商品と交換ができるブースも設けられました。地道な活動を通じて、少しずつ AFEE の浸透をはかろうという部会の会員の皆様の協力のおかげです。

今回のオータムコンファレンス開催に当たってご協力を下さった関係者の皆様に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。

さて、第28回大会は3月16日（土）、3月17日（日）の2日間にわたって福井県立大学永平寺キャンパスを舞台に開催されます。折りしも、3月16日（土）は北陸新幹線の敦賀延伸（金沢～敦賀間の開業）の開業日と重なっており、福井県でも歴史の新たな一歩を踏み出す記念すべき日となっています。多くの会員の皆様のご参加を実行委員会一同お待ちしております。

第 28 回進化経済学会オートムコンファレンス理事会議事録

日時：2023 年 9 月 16 日（土）12:05~12:50

場所：福井織協ビル 602 会議室 + オンライン

出席者（対面）：磯谷明德（会長）、吉田雅明（副会長）、廣瀬弘毅（大会実行委員長）、荒川章義、有賀裕二、依田高典、岡敏弘、瀬尾崇、橋本敬、藤本隆宏、宮崎義久、八木紀一郎、原田裕治（事務局）、

出席者（オンライン）：浅田統一郎、植村博恭、宇仁宏幸、小川一仁、巖成男、黒瀬一弘（監査）、中原隆幸、鍋島直樹、西洋（会計）、西部忠、吉井哲、

欠席（委任状あり）：池田毅、江頭進、遠山弘徳、服部茂幸、藤田菜々子（監査）、

欠席（未回答）：佐々木啓明、澤邊紀生、塩沢由典、瀧澤弘和、徳丸宜穂、

オブザーバー：谷口和久（敬称略）

1. 報告

1. 1 会勢報告

原田事務局担当理事より会勢報告が行われた。

1. 2 第 28 回オートムコンファレンス参加状況について

廣瀬大会実行委員長より、第 28 回オートムコンファレンス参加状況について報告があった。

1. 3 日本経済学会連合報告

2023 年度第 1 回評議会報告についての資料共有により省略。

1. 4 各部会報告

ニュースレター掲載につき省略。

1. 5 各委員会報告

宮崎 JAFEE 通貨運営委員会委員長より、JAFEE 通貨の現状について報告があった。

1. 6 次年度開催校について

原田事務局担当理事より次年度開催校が関西大学になる旨報告があり、小川理事から挨拶があった。

2. 議題

2. 1 入退会について

原田事務局担当理事より、メール審議によって承認された新規入会者が提示され、これを確認した。また退会希望者を確認し、これを了承した。

2. 2 2022 年度会計決算報告について

西会計担当理事より会計決算報告が行われ、2022 年度会計決算を了承した。

2. 3 学会賞・奨励賞の選定について

小川選考委員会委員長の報告書により、今年度の学会賞を藤田菜々子氏の著書『社会をつくった経済学者たち：スウェーデン・モデルの構想から展開へ』（名古屋大学出版会、2022 年）に基づいて授与することが提案され、これを了承した。また今年度の奨励賞については該当者なしとすることが提案され、これを了承した。

これに関連して、小川選考委員長並びに植村 EIER 編集長より、EIER への会員投稿が不足していることが指摘され、積極的な投稿が呼びかけられた。

2. 4 第 9 回進化経済学会役員選挙管理委員会の設置について

原田事務局担当理事より、第 9 回役員選挙について説明があり、選挙管理委員として池田理事、巖理事が推薦され、これを了承した。

2. 5 次期副会長候補並びに理事会推薦理事について

吉田副会長より、次期副会長候補並びに推薦理事の推薦基準について説明があり、これを了承した。

2. 6 JAFFE 通貨の活用促進について

宮崎 JAFEE 通貨運営委員会委員長より、PayPal を用いた学会への寄付受付に関連づけた JAFEE 通貨の活用、大会での古本市の実施について提案があり、これを了承した。

2. 7 学会活性化に向けた諸策について

瀬尾学会活性化委員会委員長より、1) 学会 Web サイトの改訂、2) X(旧 Twitter) を用いた情報発信、3) オンライン講演会の実施、4) 大学院教育拠点の調査、5) 既存インカレへの学会関与、6) 若手向けイベント（うち 5) 6) については今後具体化) について提案があり、これを了承した。

3. その他

なし

文責：事務局担当理事 原田裕治

進化経済学会会勢状況

2023年4月1日 時点

個人会員	312	(体会4含む)
個人終身正会員	19	
院生会員	38	(体会3含む)
賛助会員/団体	0	
賛助会員/特別	0	
招待会員	2	
個人準会員	0	
371		

2023年9月16日 時点

個人会員	312	(体会4含む)
個人終身正会員	19	
院生会員	37	(体会3含む)
賛助会員/団体	0	
賛助会員/特別	0	
招待会員	2	
個人準会員	0	
370		

2023年9月16日会計担当理事

西 洋（阪南大学）

1 2022年度収支計算書決算報告

※ 資料は、「進化経済学会 2022年度 収支計算書」（資料1）

※ 訂正：財産目録・資産の部科目「未収金」は第26回大会残金ではなく、正しくは第27回大会残金です。お詫びして訂正いたします。

1-1 収入（会費および大会収入）

① 正会員当該年度会費から賛助会員会費まで全てを含めた会費収入の推移（5年）

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
3,552,000円	3,425,000円	3,494,000円	3,467,000円	2,575,110円

（根拠資料）2018～2021年度：昨年度オートムコンファレンス会計報告，2022年度：2022年度収支計算書決算報告（決算額）の数字

（注）

- ・ 2022年度の会費収入は寄付金（110円）も含む。
- ・ 2022年度の会費収入は、対21年度比で25%減少（891,890円の減少）。

②会費収入・会員種別件数

年度	正会員	学生会員	正会員	学生会員	終身会員	その他	合計
	当年度分	当年度分	過年度分	過年度分			
2021年度	271件	22件	41件	7件	1件	2件	344件
2022年度	195件	13件	22件	5件	3件	8件	246件

（根拠資料）2021年度：昨年度オートムコンファレンス会計報告，2022年度：2022入金一覧表(年度・種別)

（注）

- ・ その他：前受会費，個人準会員，賛助会員，預り金。

- ・ 22年度の正会員過年度分は、自然退会者の振り込み（再入会）を含む

③第27回立教大会収入

- ・ 収入合計は1,043,003円（内訳：立教大学からオータムコンファレンスへの補助76,500円、立教大学・経済学部から本大会への補助50,000円、受取利息3円、進化経済学会からの補助40万円）。
- ・ 学会補助を除く収は入643,003円。

（参考）

- ・ 第23回名古屋大会（全て対面）の収入：74万4,001円（内訳：オータム12万2,000円、本大会62万2,001円）。

1-2 立教大会（第27回大会）収支

	収入（金額）		支出（金額）		差額
オータム カンファレンス	進化経済学会補助	400,000	支出	36,000	440,501
	立教大学・学会補助費	76,500			
	受取利息	1			
本大会	立教大学（経済学部） 学会補助費	50,000	支出	503,234	63,268
	大会参加費（振込分）	186,000			
	懇親会費（振込分）	208,500			
	大会参加費（当日払い）	46,000			
	懇親会費（当日払い） 受取利息	76,000 2			
合計	1,043,003		539,234	503,769	

（根拠資料）立教大学会計報告0406最終版：差額合計（503,769円は203年4月6日に学会口座に返金済）

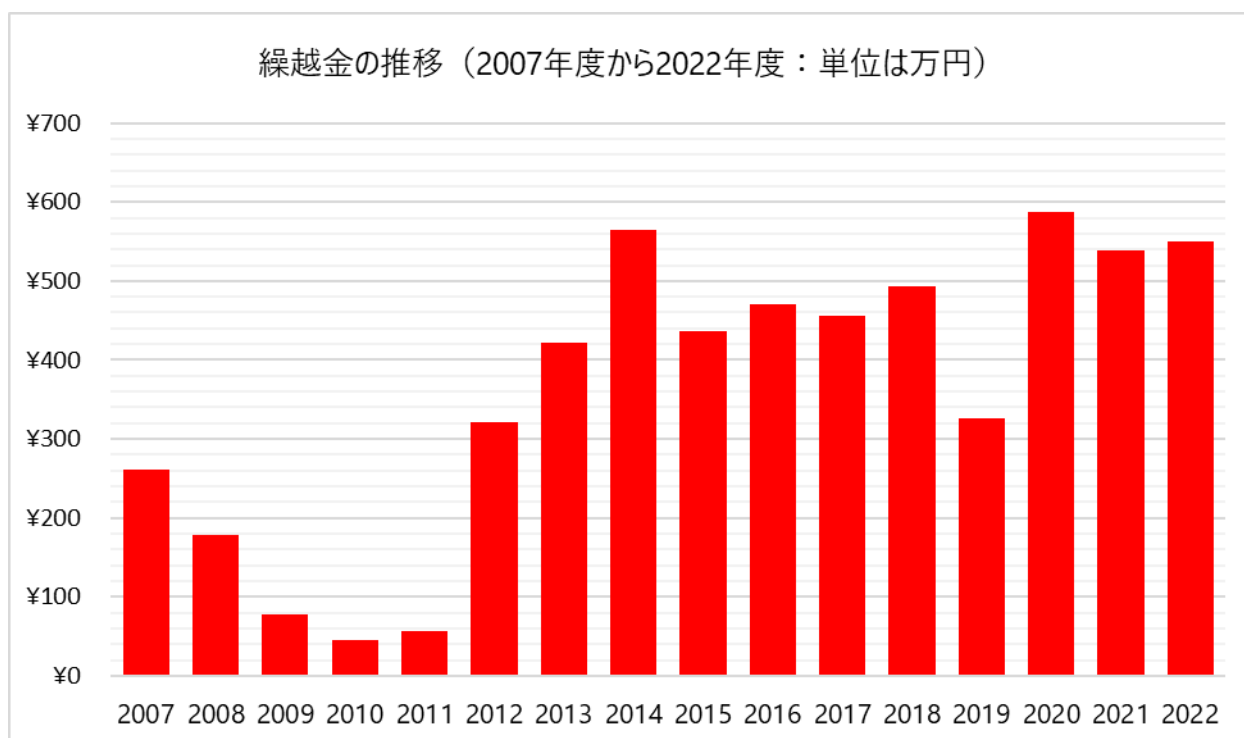
1-3 支出（項目と繰越金）

支出	参考：予算（2023年度）	決算額（2022年度）	決算額（2021年度）	決算額（2020年度）
大会費	1,100,000	539,234	191,833	153,480
オータム・コンファレンス	400,000	36,000	57,585	38,610
本大会	700,000	503,234	134,248	114,870
英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	2,200,000	0
通信費	16,000	5,568	5,568	1,560
交通費	0	0	0	0
事務用品費	64,000	20,681	38,564	33,696
謝金	16,000	0	22,000	5,568
送金手数料	16,000	7,065	10,735	6,448
会議費	0	0	0	0
印刷費	0	0	0	0
事務委託費	350,000	253,277	608,956	592,928
国際交流費	0	0	0	0
部会補助費	150,000	34,540	0	0
経済学会連合会費	35,000	35,000	35,000	35,000
学会賞	100,000	50,000	100,000	150,000
振替票送付代	0	550	14,520	15,950
予備費	80,000	23,520	804,600	84,137
当期支出合計(a)	4,127,000	3,169,435	4,031,776	1,078,767
繰越金(b)	4,173,267	5,505,227	5,394,446	5,879,212
総計(c=a+b)	8,300,267	8,674,662	9,426,222	6,957,979

（根拠資料）2020~2022 年度：当該年度オータムコンファレンス会計報告および2022 年度理事会会計報告資料、
（注）

- ・ 2023 年度の予算（参考）は2022 年度本大会理事会・総会にて承認済。
- ・ 22 年度には事務委託費を大幅に削減、23 年度以降は通信、謝金、送金手数料、予備費を20%削減する形で予算を組んでいる。
- ・ 例年報告している通り、支出の大半は大会費、英文誌編集刊行、事務委託費（支出完遂でおよそ365万円）は全支出の88%程度を占める。22年度の会費収入250万円を基準とすれば、平常運転で大会収入の115万円以上なければ、赤字運営となる。
- ・ また英文編集刊行費用は年度始め（5月）に巨額で執行されるため、速やかな会費納入が必要である。

2 繰越金の推移（過去15年分）



(根拠資料) 昨年度オータムコンファレンス会計報告，進化経済学会 2022 年度収支報告書（監査）。

(注)

- ・ 2022 年度は会費収入が 25%減であったが，大会収入がネットで 20 万強あったこと，大会補助金はオータムコンファレンスの 40 万円のみ抑えられたことなどから，繰越金は昨年度のみの 5,505,227 円を維持することができた。

3 モノグラフ・シリーズの印税収入

- ・ 2022 年度の『ハンドブック』利用料収入は 3114 円，『シュプリンガー・モノグラフ S』の印税収入は 38,986 円でした。その内訳は次の通りです。

Springer, Royalty Statement - Summary Annual Statement Period: January 01, 2021 - December 31, 2021(Document Number: S1510-0000176100-3) から作成

Title	Electronic	Print	Royalties Due
Social Preference, Institution, and Distribution	2.41	1.88	4.29
A New Construction of Ricardian Theory of International Values	5.96		5.96
J.M. Keynes Versus F.H. Knight	3.07	-10.21	0
Contemporary Capitalism and Civil Society	10.06	-0.28	9.78
The new Japanese Firm as a Hybrid Organization Edition	2.54	1.98	4.52
Evolutionary Games with Sociophysics	19.71	10.22	29.93
Spectral Theory of Value and Actual Economies	93.44	43.35	136.79
Complexity, Heterogeneity, and the Methods of Statistical Physics	43.31	18.31	61.62
Interacting Complexities of Herds and Social Organizations	9.6	3.01	12.61
Sociophysics Approach to Epidemics	46.13	24.75	70.88
Statistical Properties in Firms' Large-scale Data	72.06	35.41	107.47
Catastrophes and Unexpected Behavior Patterns in Complex Artificial Populations	39.83	24.01	63.84
Total	348.12	152.43	507.69
Withholding Tax Calculated on 507.69			-50.77
Payment Due SGD			456.92
Amount to be Transferred to your bank (rate 85.324232082) JPY			JPY 38,986

以上

進化経済学会

2022年度 収支計算書
(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	
会費	2,767,000	2,575,710	-191,890	大会費	1,100,000	539,234	-560,766	
正会員当該年度	2,600,000	1,950,110	-649,890	オータム・コンファレンス	400,000	36,000	-364,000	
正会員過年度分	0	310,000	310,000	本大会	700,000	503,234	-196,766	
終身正会員当該年度	50,000	150,000	100,000	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0	
院生会員当該年度	105,000	65,000	-40,000	通信費	20,000	5,568	-14,432	
院生会員過年度分	0	25,000	25,000	交通費	0	0	0	
準会員	2,000	0	-2,000	事務用品費	80,000	20,681	-59,319	
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	20,000	0	-20,000	
JAFEE通貨寄付	0	0	0	送金手数料	20,000	7,065	-12,935	
その他(前受会費・預り金)	10,000	75,000	65,000	会議費	0	0	0	
大会収入	200,000	543,003	443,003	印刷費	0	0	0	
オータム・コンファレンス	50,000	76,501	26,501	事務委託費	450,000	253,277	-196,723	
本大会	150,000	566,502	416,502	国際交流費	0	0	0	
利息	0	3	3	部会補助費	150,000	34,540	-115,460	
寄付金	0	20,000	20,000	経済学会連合会費	35,000	35,000	0	
書籍売却代	0	0	0	学會費	100,000	50,000	-50,000	
定期購読料	0	0	0	振替票送付代	0	550	550	
利用料	進化経済学ハンドブック	6,000	3,114	-2,886	予備費	100,000	23,520	-76,480
印税収入	シリアンガー・モノグラフS	28,000	38,986	10,986	当期支出合計	4,275,000	3,169,435	-1,105,565
当期収入合計	3,001,000	3,280,216	279,216	繰越金	4,120,446	5,505,227	1,384,781	
前期繰越金	5,394,446	5,394,446	0	総計	8,395,446	8,674,662	279,216	
総計	8,395,446	8,674,662	279,216					

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2023年 7月 25日 黒瀬 一弘
進化経済学会監査委員

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2023年 7月 29日 藤田 菜々子
進化経済学会監査委員

貸借対照表
(2023年3月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
I. 流動資産		II. 流動負債	
現金		前受会費	10,000
預金			
普通預金	137,540		
郵便振替	4,873,918		
未収金	503,769	III. 正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	5,394,446
		当期差益	110,781
合計	5,515,227	合計	5,515,227

財産目録
(2023年3月31日現在)

(資産の部)		(単位：円)	
科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(大美出張所)	137,540
	学会事務局(国際文献)	郵便振替口座	4,873,918
未収金	退会回大会残金		503,769
	27		
資産合計			5,515,227

(負債および正味財産の部)		(単位：円)	
科目	適用	金額	
流動負債			10,000
前受会費		10,000	
負債合計			10,000
正味財産合計			
		前期繰越金	5,394,446
		当期収支差額	110,781
負債及び正味財産合計			5,515,227

ニュースレター54号の訂正について

ニュースレター54号の7頁に掲載の「第27回進化経済学会東京大会総会議事録」において下記のように誤りがありましたので、ここにお詫びと訂正をさせていただきます。

3. の下段

(誤) 「服部茂幸実行委員長より大会開催状況報告があった」

(正) 「池田毅大会実行委員長より大会開催状況報告があった」

編集後記

みなさま、2024年もどうぞよろしくお願いいたします。
今年もみなさまにとって実り多い年となりますように願っております。
福井県の記念すべき日に開催されることになった全国大会にて、みなさまとお会いできることを楽しみにしております。

ニュースレター編集担当 横田宏樹（静岡大学）